

2022年度第1回産業医部会幹事会議事録

日時：2022年5月27日（金）15：00～18：00
場所：クラウンパレスホテル新阪急高知 星の間
（第95回日本産業衛生学会会場）※ZOOM 併用

（敬称略）

出席：宮本俊明、小田原努、森口次郎、西條泰明、原俊之、菅原保、各務竹康、
大橋力、加藤憲忠、谷山佳津子、福本正勝、塚原照臣、西澤依小、石川浩二、
遠田和彦、西賢一郎、伊藤正人、岩根幹能、奥田昌之、真鍋憲幸、斎藤恵、
池上和範、黒崎靖嘉
（監事）深澤健二
（オブザーバー）大神明専門医制度担当理事、山本誠 P コース企画運営委員長
欠席：杉原由紀、

1. 審議事項

①前回幹事会議事録の確認（資料1）

石川幹事より議事録の確認があり、修正事項があれば1週間以内に連絡し、それを受けて確定とすることとなった。

②第95回学会の産業医部会長賞について

宮本部会長より、関係幹事の協力を得て、各務幹事の演題が選出されたこと、また第96回大会でも同様の表彰制度の可能性があり、大会本部で一次審査した後での各部門展開を要望したと報告があった。

③会計報告・会計監査報告について（資料2、3）

加藤幹事より、会計報告があった。2021年度は単年度で約133万円の黒字となり、その大きな要因は通常3回発行されていた部会報が2回であったことで約90万円浮いたことであったと説明があった。深澤監事から監査報告があり、承認された。

④学会全体の会計と産業医部会について

宮本部会長より、コロナ禍で各種行事が縮小したことなどにより支出が激減したこと、公益法人としては収入と支出が見合わないことは問題で、各種対策をしていることが報告された。特に地方会でのプールが大きいことが課題であると説明があった。部会各地方会での余剰金が多くある場合は、地方会長と相談するよう依頼があった。

⑤謝礼（クオカード）の扱いについて

宮本部会長より、会員への講演や査読などを含む何らかの労務への謝礼として、クオカー

ドの提供は一旦凍結となったことが報告された。黒崎幹事より、理事会では決定でないと聞いたが、不可と決定したか確認があり、宮本部長より、全国大会等での明らかに一過性の謝礼としての配布は今のところ可だが、現時点での学会全体での保有クオカード金額が大きすぎたため配布が繰り返される場合は源泉徴収が必要で、精査を要するため地方会での研修会などでの会員への講師謝礼も含めて原則一旦不可、という理解であると確認があり、また会議食費等は 2000 円までは可と確認があった。奥田幹事から、平成 29 年の学会発行の文書の修正（粗品にクオカード等が含まれている件）の確認があり、今後記載事項の変更予定との非公式回答が森口副部長からあった。

⑥部会長の地方会での講演時の旅費扱い

宮本部長より、東海産業医部会での講演があり、講演テーマが産業医部会の今後の展望だったので、部会長の旅費を部会本部での支払いか、地方会から徴取すべきかが議題としてあがった。遠田幹事から、理論上は地方会で負担だが予算がなく活動が狭まる問題があること、加藤幹事より本部会計での計上は可能であることが補足された。大橋幹事より、今後は予算時点で不足分を請求することが妥当であると意見があった。今回は、まずは東海地方会へ捻出について打診し、困難である場合は、部会から救済も可能とすることとなった。（⇒幹事会後の確認で東海地方会での負担になったと報告あり）

⑦医部会報について（編集委員会）（資料 4）

原幹事より、第 74 号が原幹事の担当で 4 月に発刊されたこと、第 75 号は池上幹事が担当で編集作業中であることが報告された。シリーズものとして、法改正関連の話題を始めていること、また今回の編集委員会で化学物質の自主管理についてシリーズ化を検討し、大前先生への執筆依頼の提案があった。可能となった場合、非部会員であることから、謝礼を渡すことの提案があり、大橋幹事より、後で渡すことが妥当であると意見があった。また次点候補として山本健也先生が提案された。

⑧プロフェッショナルコースの委員について

加藤幹事より、P コースの委員交代の時期となり、次期委員に、山本誠委員（継続）、神原委員、西浦委員、菅野委員へ委嘱されたと報告があった。また企画運営委員長については加藤幹事から交代して山本委員が推薦され、承認された（山本委員の推薦は P コース実行委員会での互選によるもの）。

⑨プロフェッショナルコース Web 聴講生導入について（資料 5）

山本 P コース新企画運営委員長より、会員のニーズに応えるため、P コースも現地参加の他、Web 聴講参加者（ディスカッションには参加せず、Web 聴講のみ）も募集することが提案され、承認された。小田原副部長より、Zoom の規模契約の確認があり、現状 P コース独自の契約である旨回答があった。

⑩専門医制度について

大神専門医制度担当理事より、社会医学系専門医について、指導医については、日本産業衛生学会への入会、指導の協力依頼があった。日本産業衛生学会の専門医制度の次期委員につ

いて、筆記試験は黒澤一先生が委員長、口頭試験は北原佳代先生が委員長、専攻医試験は平工先生が委員長となり、その他各委員の紹介があった。臨床系専門医(二階建ての一階部分)を取得した後、日本産業衛生学会専門医(二階部分)を取得することは可能であること、また臨床系専門医を維持できない場合も日本産業衛生学会専門医は失効しないことなどが補足された。

⑪ポスター発表優秀賞選考と表彰方法について

西條幹事より、第 32 回全国協議会も前回同様の発表形式であることから、選考、表彰方法は前回と同じ方針であると報告があった。奥田幹事より、部会員以外の表彰の可否について確認があり、加藤幹事から副賞は会員から徴収した会費が原資となっていること、西條幹事から部会員へのインセンティブになることなどの理由があると発言があり、当面は部会員のみを対象とすることが確認された。また、医部会員であれば医師でなくても対象とすることが提案され、承認された。

⑫学会 100 周年記念事業に向けた資料収集について

宮本部会長より、労働衛生史研究会の世話人などを中心としたメンバーを選任して座談会を開催して今後議論していく予定であると報告があった。

⑬ホームページの活用、メルマガ、定期行事の広報ツールについて (資料 6)

黒崎幹事より、HP の幹事名簿の更新依頼があり、石川幹事の方から確認の展開をすることとなった。また部会員数は、4/4 時点 1736 名であることが確認され、HP を更新することとなった。幹事 ML について、本アカウントが企業メールアドレスの場合は企業セキュリティポリシーで添付ファイル等が届かない事があるため、サブのメールアドレスも登録できる旨、報告があった。

定期行事の広報ツールについては、まず定期行事として産業医部会フォーラム(春の学会)・産業医部会自由集会(秋の全国協議会)・産業医プロフェッショナルコースがあり、地方会行事その他もある事、広報ツールとして産業医部会ウェブサイト・産業医部会報・学会メルマガ・学会ウェブサイト(「イベント」ページ)その他がある事が示された。定期行事については広報に使用するツールを予め決めておくと、広報漏れがなくなるので良いのではないかと提案があった。

学会メルマガは奇数月の中旬目標で発行され、学会事務局から部会長宛に原稿依頼が送付される事、学会ウェブサイト「イベント」ページは部会員に限定しない全会員向けのイベントを掲載する場とされているがそこまで厳密には限定していない事(例えば P コースは掲載可能と思われる)、また地方会産業医部会のイベントについてもウェブ開催等で地区に限定されず多くの会員が参加可能であれば掲載可能であろうと報告があった。

学会のメルマガについて、9月号に、山本 P コース企画運営委員長より、P コースの内容の掲載希望があった。全国協議会自由集会についても 9月号に掲載予定とし、地方会企画は希望時のみ掲載する方針とした。

⑭第 95 回学会(高知)医部会フォーラムについて

斎藤幹事より、5/28 の総会后 14 時から開催予定で準備していること、演者の 1 名の労働

衛生課長が異動となり、交代となったことが報告された。森口副部長より、部会企画のシンポジウム3「産業保健の新たな潮流と産業保健スタッフの役割」が盛会に開催されたことが報告された。

⑮第32回全国協議会自由集会について（資料7）

原幹事より、「対応困難事例についての私の取り組み方、コツ」として準備中であり、座長は原幹事と西澤幹事が担当することとなった。

⑯職場の熱中症対策についての医部会案（資料8）

奥田幹事より、各種文献の紹介があった。また日本産業衛生学会からは、2011年の見解が出されたが、新しくエビデンスに基づいた見解に修正してはどうかと意見を出すことが提案された。宮本部長より作成した学会の温熱研究会に打診してみるとの提案があり、その対応をみて今後も検討していくこととなった。

⑰退会手続きについて（資料9）

石川幹事より、退会手続きについて、現状は事務局へ連絡がない限り、会費を3年滞納した場合は退会となっていると報告があり、今後変更の可否や手続き方法について規定を明記しておくなどの提案があった。宮本部長より4部会で合わせる必要があり、今後4部会長会議で議論していくこととなった。

⑱次回幹事会の日程について

第32回全国協議会開催中の9月29日（木）15時から18時で開催予定となった。遠方からの出席者で時間変更の必要がある場合は1週間以内に幹事会MLへ連絡することとなった。

2. 報告事項

①第31回全国協議会開催報告

遠田幹事より、参加者数は1660名を超え、盛会に終えたこと、また収支は凡そプラスマイナスゼロであったこと等報告があった。

②第32回全国協議会準備報告（資料7、10）

原幹事より、4部会合同シンポジウム、産業医部会企画、30周年記念合同企画の概略と準備状況の報告があった。また、事前参加登録についても説明があった。

③第33回全国協議会について

西澤幹事より、2023年10月27日から甲府市で開催予定であると報告があった。

④第34回全国協議会の開催地について

宮本部長より関東地方会が担当し、千葉県で開催予定であると報告があった。

④第95回学会（高知）の準備報告

齊藤幹事より、滞りなく進行していると報告があった。

⑤第96回学会（宇都宮）について

福本幹事から、2023年5月10日から12日に宇都宮市の宇都宮コンベンションセンター

で、ハイブリット開催で準備中であることが報告された。

⑥第 97 回学会の開催地について

真鍋幹事より、中国地方会が主催で、2024 年 5 月 22 日から 25 日に広島市において開催予定で準備を開始したと報告があった。

⑦各種委員会報告

生涯教育委員会について、伊藤幹事より、ホームページの改訂に合わせ、運用の変更があったこと、審査員のグループ化など審査方法の変更をして今後 GPS 賞の選考予定であると報告があった。

政策法制度委員会について、森口副部長より化学物質の自主管理について議論があったこと、ラウンドテーブルディスカッションを受けて今後、4 部会の幹事会でそれぞれ意見のまとめの要望があると報告があった。それを受け、宮本部長からたたき台を作成して幹事に展開することとなった。

学術委員会について森口副部長より、基礎研究、研究基盤などサブグループの取り組み状況の報告があった。また先日実施したアンケート集計を受けて、今後研究の基礎研修などのコンテンツを作成するなどを検討中であることなどと報告があった。

ダイバーシティ推進委員会について、大橋幹事から、今後 2 年間委員会設置継続となったこと、5/26 にフォーラムを開催し、医学会連合からの各種アンケート調査結果報告や、地方会での活動報告等があり盛会だった一方で、各地方会の取り組みなどを情報共有する手段が乏しく、今後、学会 HP の活用などで協力を頂き改善していきたいとの報告があった。また今後オンライン学会への参加の手引きを作成予定であると報告があった。

広報委員会について、黒崎幹事から新 HP が 2 月 28 日に公開となったこと、部会の会員リスト表示なども可能となったことなど報告があった。

⑧各担当幹事報告

森口副部長より、日本医師会で化学物質管理への対応について議題に上がり、日本産業衛生学会とも連携依頼していく意向であることが報告された。

⑨理事会報告（資料 8）

大橋幹事より、4/16 の理事会について報告があり、研究会で、「交通における安全と産業衛生の研究会」が解散となったこと、また中間報告として、既発表論文の学会等での再発表については、出典を明らかにすることで可とし、関連の委員会で確認の後、学会運営マニュアルにその旨記載する方向性であることが報告された。

⑩各地方会活動報告

各地方会から活動状況の予定、報告があった。

⑬その他

森口副部長より、業務執行理事会において、会員と非会員で参加費などの差の有無を確認することとなり、産業医部会の各種企画で実態について調査への協力依頼があった。

以上